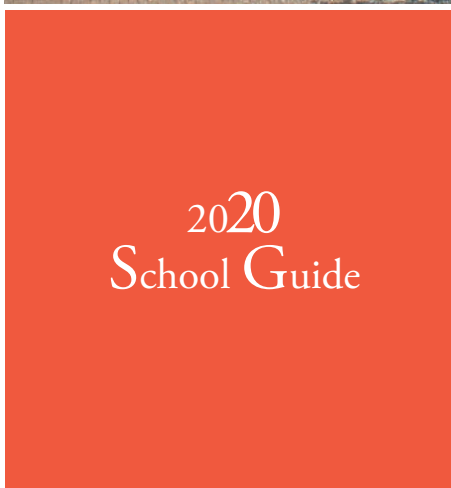
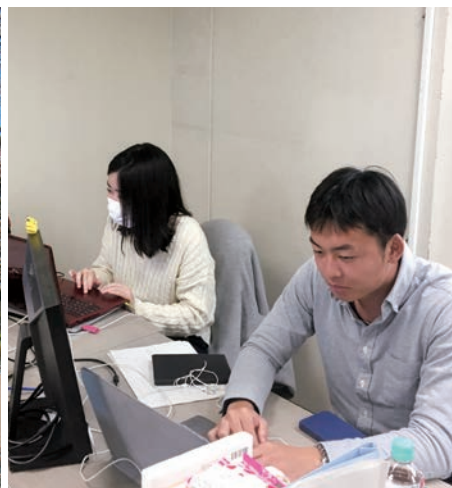




情報学群 知識情報・図書館学類



*College of Knowledge and Library Sciences
School of Informatics*

知識の時代

この学類案内を見て興味をもったみなさんが次に取る行動は、多くの場合「Webで調べる」になるはずです。

では「Webで調べる」とはどういう行為でしょう。それは大学が発信する情報、受験産業による分析、大学生や卒業生による口コミなどを、みなさんの必要や興味に応じて探索し、選別して自らの知識を補うということです。

インターネットとWebは社会を大きく変化させてきました。その到達点として、私たちはあらゆる知識や情報をWebから入手できる時代を生きています。しかし、そこには大きな困難があります。自分が欲しい情報が見つからない、もっと良い情報が他にあるかもしれないと思って不安になるなどは誰もが経験したことでしょう。

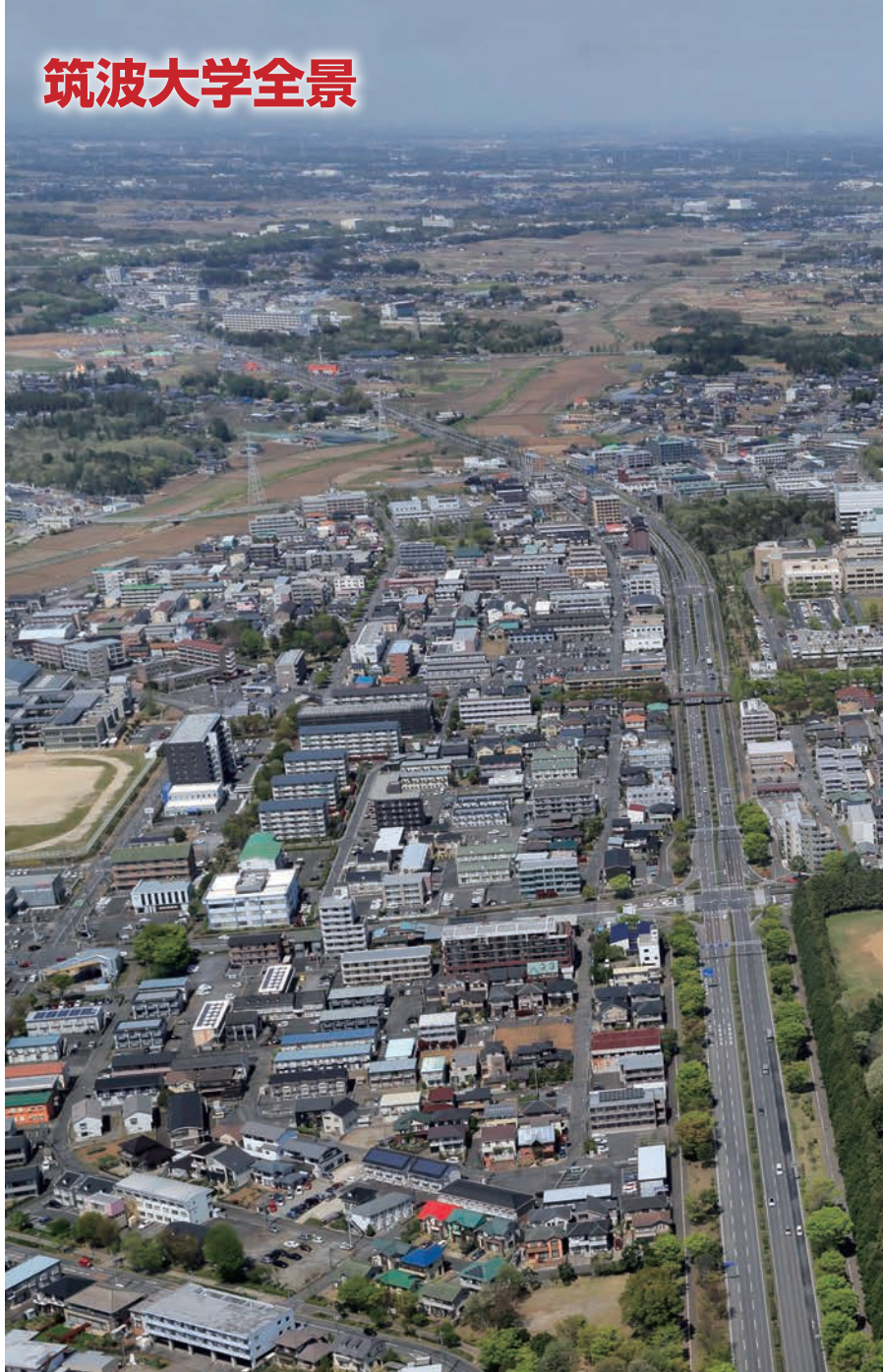
一方、大きな可能性も広がっています。誰もが膨大な知識にアクセスして、新たな知を生み出すことができます。ひとりひとりの小さな知識を集めて、新たな価値を生み出すこともできるでしょう。

知識情報・図書館学類は「知識の時代」を生きるすべての人に寄り添って社会を支え、変革していく、知識の共有と活用 of 専門家を養成します。私たちを足がかりに、知識のスペシャリストとして未来を担ってみませんか。



知識情報・図書館学類長
歳 森 敦

筑波大学全景



春日エリアの施設



目次

学ぶ	2~5
研究室訪問	6
教員紹介	7
入試(2020年度)	8
入試(2021年度以降)	9
ビブリオバトル	10~11
3年次編入	12~13
進路	14~15
先輩の声	16
学生生活Q&A	17

筑波大学
天王台
エリア

筑波大学
春日
エリア



学ぶ

■ 知識情報・図書館学類とは？

みなさんは何かについて知りたいと思ったとき、どうしていますか？まわりにある情報の多さに困惑していませんか？知識情報・図書館学類では、情報化社会に生きる私たちが知識や情報を有効に活用するためのさまざまな仕組みを扱います。そこには、社会に息づく図書館や文書館もあれば、広大なインターネットの世界、膨大な情報やデータの利用と分析、未来への知識や情報の伝達などが含まれています。

知識や情報を有効に活用するためには、その性質を的確にとらえ、それらを扱うシステムを設計・構築する必要があります。システムを創るためには、制度や文化、運営について考えなければなりません。知識情報・図書館学類では、これらの課題について「知識科学」、「知識情報システム」、「情報資源経営」の三つの主専攻が協力して、知識や情報と社会をつなぐ人材を育成します。

■ カリキュラム

知識情報・図書館学類のカリキュラムは図1のようになっています。1年次には、総合科目、外国語や体育などの基礎科目に加えて、知識情報、知識情報システム、図書館などについての概論や、プログラミング入門、情報数学などの専門基礎科目を通して、基礎的知識や技術

を学びます。2年次には、1年次に得た知識や技術をさらに深めていくため、主要なテーマごとに設定された講義と、技術を修得する知識情報演習などからなる専門基礎科目を履修します。3年次になると三つの主専攻のいずれかに属して、専門科目を履修します。多様な視点を育成するため、所属する主専攻の専門科目だけでなく、他の主専攻の専門科目も履修することが要求されます。4年次には、研究室に所属して卒業研究を行い、卒業論文を執筆します。資格取得をめざす人のために、司書教諭、司書、教員免許、テクニカル・コミュニケーターの科目も開講しています。

■ 専門教育

知識情報・図書館学類の専門教育の内容は、三つの主専攻に集約されています。各主専攻の特徴は、表1のようになっています。知識科学主専攻は「人間」、知識情報システム主専攻は「情報技術」、情報資源経営主専攻は「社会」をキーワードに、幅広い視野を養い、専門領域の内容に即して、人間、技術、社会・文化の結合と相互の役割を理解するための科目を展開しています。

図1 知識情報・図書館学類のカリキュラム体系

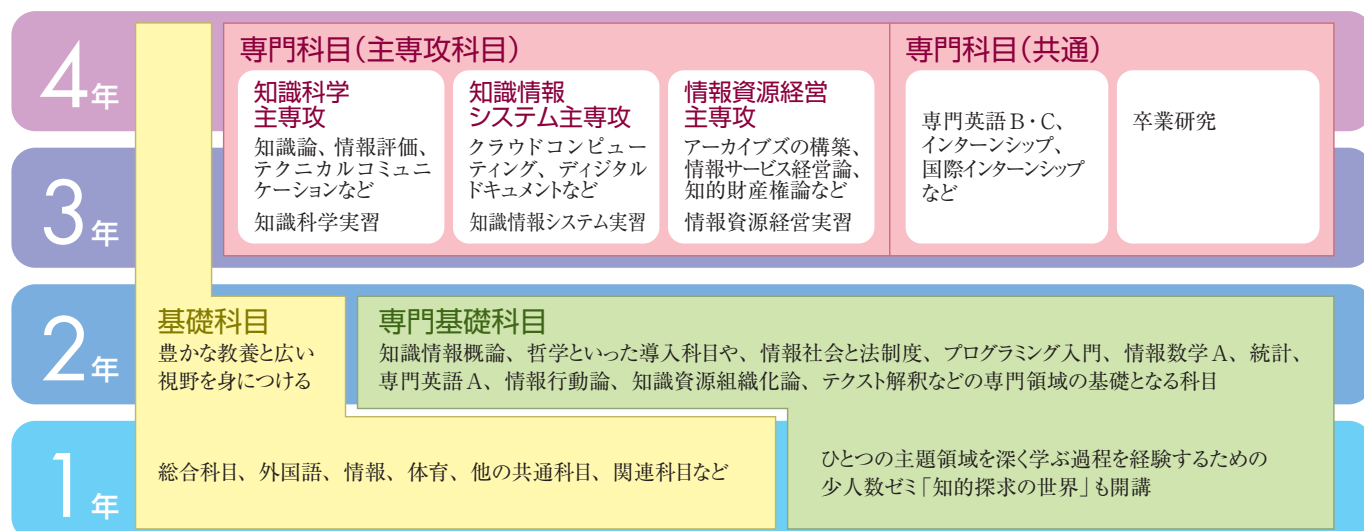


表1 各主専攻の特徴

	知識科学主専攻	知識情報システム主専攻	情報資源経営主専攻
ポイントは?	人 間	情報技術	社 会
何を学ぶか?	知識の本質、知識と情報行動、知識獲得のあり方と方法、知識の抽出・表現・探索、思考法に関する理論と応用	知識と情報の共有、データベース、情報検索、デジタルライブラリなどの知識情報技術に関する理論と応用	知識共有に関する社会制度、メディアと図書館の文化、知識情報資源の構築とサービスのマネージメントに関する理論と応用

図2 知識情報・図書館学類の科目一覧

学群共通科目		専門科目	
グローバルチャレンジ演習 体験型システム開発 ビジネスシステムデザイン		知識科学主専攻	[専門情報] テクニカルコミュニケーション, サイエンスコミュニケーション [知識共有] 知識論, 知識コミュニケーション, レファレンスサイエンス メディア社会文化論, 知識形成論 [知識行動] 学術メディア論, コミュニティ情報論, ソーシャルメディア分析 図書館建築論 [知識発見] 知識構造化法, 情報評価, 生命情報学, データマイニング Machine Learning and Information Retrieval
☆は必修科目		知識情報システム主専攻	[知識情報システムの実際] デジタルライブラリ, デジタルドキュメント 情報サービスシステム [知識情報システムの実装] マルチメディアシステム, 情報検索システム, Webプログラミング [知識情報システムの設計] データベース技術, データ表現と処理 情報デザインとインタフェース, ヒューマンインタフェース メディアアート, Human-computer Interaction [知識情報の組織化] 知識資源の分析 [知識情報システムの原理] テキスト処理, マークアップ言語, クラウドコンピューティング ソフトウェア工学
基礎科目 ☆第1外国語(英語) ☆総合科目 (フレッシュマン・セミナー, 学問への誘い等) ☆情報 ☆体育 第2外国語		情報資源経営主専攻	[知識情報環境の構築] 図書館論, 学術情報基盤論, 経営情報システム論 [知識情報サービスの経営] 情報サービス経営論, パブリックガバナンス [知識情報サービスの構成] 情報サービス構成論, コレクションとアクセス [知識情報の社会化] 教育文化政策, 学校図書館論, メディア教育の実践と評価 [知識情報の規範] 情報法, 知的財産権論A [メディア文化] 映像メディア論 [図書館と書物の文化] 図書館文化史論, 日本図書館学, アーカイブズの構築 アーカイブズの利用
専門基礎科目 [知識情報学への導入] ☆知識情報概論 ☆アカデミックスキルズ ☆哲学 知識情報システム概説 図書館概論 [プログラミング基礎] ☆プログラミング入門 [数学] ☆情報数学A 線形代数A 微分積分A [情報科学] 知能と情報科学 計算と情報科学 システムと情報科学 [情報メディア創成] 情報メディア入門A, B, C コンテンツ応用論		学類共通	[研究と英語] ☆専門英語B, C [司書教諭科目] 学校図書館メディアの構成, 学習指導と学校図書館 読書と豊かな人間性, 情報メディアの活用 [インターンシップ] インターンシップ, 国際インターンシップ
専門基礎科目 [知識情報演習] ☆知識情報演習I, II, III [統計とその応用] 統計 量的調査法 多変量解析 機械学習 [専門英語への導入] ☆専門英語A [知識と人間] 情報探索論 質的調査法 情報行動論 知識発見基礎論 [知識とシステム] 知識資源組織化論 コンピュータシステムとネットワーク 自然言語解析基礎 [知識と社会] 情報社会と法制度 知的財産概論 生涯学習と図書館 公共経済学 経営・組織論 メディア社会学 映像メディア概論 [メディアの理解] テキスト解釈 [少人数セミナー] 知的探求の世界I, II		☆主専攻実習	☆卒業研究

■ 特色ある科目

1年次には、大学生活への適応を支援する「フレッシュマン・セミナー」に引き続き、文章を読む、まとめる、議論する、発表するなどのコミュニケーション基礎力を養う「アカデミックスキルズ」を必修科目としています。また、文理融合型のカリキュラムによって総合的な能力を育てるとともに、2年次と3年次には必修の演習（「知識情報演習」、「知識科学実習」、「知識情報システム実習」、「情報資源経営実習」）を開設し、知識と技術の確実な定着をめざします。さらに、4年間を通して英語力を維持向上させるために英語による授業（専門科目）を開講したり、実社会での専門的な職業体験ができるよう、図書館や企業における「インターンシップ」を開講しています。

■ 国際インターンシップと海外研修助成

筑波大学は知識情報学の国際的研究教育拠点であり、世界的な交流が行われています。その交流関係を活かして、2009年度よりカナダ、アメリカ、中国、韓国における様々な図書館や情報センターと連携した「国際インターンシップ」を開講しています。受講者は研修先に10日間ほど滞在し、相手国の図書館や情報センターの業務を見学・実習することで、国際感覚やコミュニケーション能力を高め、国際的な視野を養います。これまでの研修先と受講者数は表2を参照してください。また、ピッツバーグ大学や釜山大学など、海外の学生が筑波大学を訪問した際には、講義や見学をとおして、日本の図書館や関連機関について学ぶ機会も提供しています。



さらに、同窓会である図書館情報学橘会の支援を受け、知識情報学に関する国際的な知見を深めるための短期海外研修事業として「図書館情報学海外研修助成」を実施しています。この事業では、自分が作成した海外での研修プランに対して、渡航費や滞在費などが助成されます。

■ 組み込み技術キャンパスOJT

先端ITベンチャー企業から派遣された技術者の指導をキャンパス内で受けながら、実践的な技術が習得できます。受講生がIPAの未踏IT人材発掘・育成事業に採択されるなど大きな成果を挙げています。

■ enPiT

情報学群は情報技術を高度に活用して社会の具体的な課題を解決できる人材育成のために、産学協働で課題解決型学習（PBL）の実践的教育を推進する全国的な拠点に採択されました。2017年度から本格的に授業として開講されました。

表2 国際インターンシップ受講者数

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
アメリカ（ハワイ大学、ミシガン大学、ピッツバーグ大学）	—	2	1	1	1	1	1
中国（上海図書館）	5	—	2	—	2	—	—
韓国（釜山大学校）	6	1	1	2	1	—	—
ドイツ（シュトゥットガルトメディア大学）	—	—	—	—	—	2	2

表3 図書館情報学海外研修助成を受けたテーマの例

イギリスの公共図書館 Idea Store の調査（イギリス）
イタリアにおける公文書館の見学（イタリア）
カンボジアの教育事情－学校・施設の取り組みを通して（カンボジア）
北欧の公共図書館におけるIT利用支援サービス（デンマーク）
欧州諸国と日本の図書館の比較（イギリス、フランス、オランダ、ベルギー、デンマーク）
日本のNGOによる開発途上国の図書館への支援（ラオス）

■春日ラーニングコモンズ (KLC)

ラーニングコモンズとは、大学内に形成された「学習するための共有スペース」です。KLC (Kasuga Learning Commons) は図書館情報学図書館のなかにあり、だれでも利用できます。

KLCにはICT環境として、カラープリンタ、大型ディスプレイ、ホワイトボード、ミーティングテーブルなどが設置されています。KLCには上級生チューターが質問を受け付ける専用カウンターがあり、週に3回15:00～19:00にチューターが講義や履修に関する質問を受け付けています。

1年のときにKLCで上級生からレポートの書き方や、パソコンをネットワークに接続する方法を教わった学生が、今度はチューターとしてみなさんの入学を心待ちにしています。



上級生チューターが質問を受け付けるカウンター



KLC

撮影 池田光雪 (知識情報・図書館学類卒)

■司書資格と司書教諭資格

知識情報・図書館学類では、司書と司書教諭の資格が取得できます。司書や司書教諭は他の大学でも取得できますし、場合によっては通信教育や司書講習でも取得できます。しかし、同じ資格でも、知識情報・図書館学類は以下の点が異なります。

- (1) 資格のための科目ではなく、知識情報学の専門科目として自然に位置づけられています。
- (2) 現在の図書館は情報センターとしても機能しています。司書資格の多くは文系学科で取得しますが、本学類では理工系、たとえば情報システムにも明るい学生を育てています。
- (3) 図書館での現場実習が「インターンシップ」「国際インターンシップ」として組み込まれています。

単なる資格として取得するか、実力の伴った資格にするか、それはみなさん次第です。

■テクニカルコミュニケーター専門課程

テクニカルコミュニケーターとは、仕事としてテクニカルコミュニケーション（機器や各種サービスに関して、利用者が求める情報を、正確かつわかりやすく表現するとともに、効果的に提供すること）に携わる人々のことをいいます。テクニカルコミュニケーターには、情報処理能力だけではなく、ライティングや検索力、企画力、法的知識など、幅広い能力が求められます。

2012年度より、一般財団法人テクニカルコミュニケーター協会 (JTCA: テクニカルコミュニケーションの専門家団体) が、テクニカルコミュニケーター専門課程の認定を開始しました。これは、JTCA が定めた専門分野に関する科目から成る課程を認定するもので、知識情報・図書館学類はこの認定を取得しました。知識情報・図書館学類の定められた科目を履修し、JTCA に申請することにより、テクニカルコミュニケーター専門課程の修了認定が受けられます。

研究室訪問



後藤 嘉宏 教授（知識科学主専攻）

私のゼミ（研究室）は社会学、メディア論、思想史のゼミという看板を打ち立てています。社会学は非常に間口の広い学問です。人が複数いれば、もうそれは社会です。よって多岐にわたるテーマが想定できます。対象はほぼ何でもOKです。人々の行為の意味を理解するという方法論だけは採用して貰いますが、これについては2年次の授業「メディア社会学」で詳しく説明します。

他の人のやったことのないことを、自分なりの切り口で解決できるテーマのある学生を受け入れてきています。特に「こんなこと研究になるの」と他人からいわれるようなものでも、そこに拘りがあってどうしても研究したいという学生と共に学んでいきたいと思っています。

過去のテーマのタイトルを見ると「コスプレにおける立場の違いをもたらす要素」「『an-an』読者による恋愛マニュアル記事の読み方をめぐる研究」「『白雪姫』の児童書におけるストーリー展開の比較—ディズニーアニメ等の影響に着目して—」「BL書籍を読みつづける理由—読者の自己意識と物語における読者の視点—」「ラーメン二郎の流行と定着についての考察」等、サブカルものが多いですが、王道の研究をする人もいます。際物、サブカルものであっても、傍流から主流に光を当てるといって、マイナーな対象の研究から本質論に迫ることを私は求めます。したがってどちらも目指すところは、ほぼ同じです。

自分なりの気づきを大切に育みたい学生さんの、「こんな研究やってみたい」を応援するゼミです。

じつは私自身の研究は中井正一という国立国会図書館初代副館長で、日本最初のカラー映画を作った美学者を、思想的に地道に研究しています。でも中井は多様な学問、そして多様な人々の編みだす文化を楽しみ、そのような多元性によって民主主義の基盤を構築しようとした人です。中井は学問分野横断的な同人誌や、労働者・学生といった読者の投稿で紙面を構成する新聞の発行を通じて、他の人の発想を発酵させ引き伸ばさせることに長けた人でした。したがって私が中井の精神を引き継いでいるのなら、そういう彼の姿勢に少しでも教育研究の場で近づかなければという思いで、ゼミを運営しております。自発的な学びを楽しめる学生さんとの議論を心待ちにしております。



高久 雅生 准教授（知識情報システム主専攻）

ウェブ上には日常的なものから学術的な内容まで、さまざまなコンテンツやサービスがあふれています。しかしながら、それらのコンテンツ群を適切に組織化して容易にアクセスできるようにするという情報専門家の営みは古くから変わっていません。そのためには、コンテンツをどのようなキーワードでアクセスできるようにするか、対象とするコンテンツに適した表現力の高いデータモデルはどのようなものかという課題と向き合わなければなりません。こういった組織化の課題に応える一方で、利用者の情報ニーズを的確にとらえることも重要です。利用者は、単一のコンテンツに辿りつくことを求めているのか、複数のコンテンツを横断して比較検討を加えたいのかなど、さまざまなニーズや文脈をもっています。

高久研究室では、これらの問題意識のもと、1) 情報組織化のためのLinked Open Data (LOD) 技術の活用、2) 文書群を適切に索引付けして利用者の情報ニーズを満たす文書を取り出す情報検索技術、3) 利用者のニーズや探索プロセスの理解を助ける情報探索行動といった領域で研究しています。

近年の卒業研究のテーマには「主題情報に基づく情報探索支援手法」「新書本による学問発見支援システム」「関心が広がるキーワード自動生成システム」「ディスカバリサービスにおけるクエリとの関連度を考慮した情報源提示システム」などがあります。

一年をかけて一つのテーマに取り組み、その結果を自分の言葉で説明するという卒業研究のプロセスは学生生活の集大成であり、何よりも自身を成長させる資産と信じます。研究室はこの学習を支える基盤として、毎週の教員との個別面談やゼミ全体でのミーティングといった機会を使って学びを支えるとともに、ぜひ皆さんと一緒に学びたいと思っています。



呑海 沙織 教授（情報資源経営主専攻）

呑海研究室では、図書館を中心とする知識情報基盤に関して研究を行っています。知識情報基盤とは、あらゆる学習・教育・研究に必要な知識や情報を蓄積・共有・活用することによって、知識情報社会を支える社会的基盤です。長い歴史をもつ図書館について、歴史的時間軸および地理的空間軸から、知識情報基盤の社会的役割を探ります。

現在は、溝上研究室と連携しながら、「超高齢社会と図書館」をテーマとして研究しています。日本は、高齢化先進国であるにもかかわらず、高齢者を対象とした図書館サービスも進んでいるとはいえないのが現状です。そこで呑海研究室では、超高齢社会における図書館モデルを構築すべく、「認知症にやさしい図書館」や「コミュニティ主導型図書館サービス」などさまざまなアプローチからプロジェクトを展開しています。

最近の卒業研究のテーマとしては、「公共図書館における人型ロボットによる高齢者サービス」「公共図書館の高齢者サービスにおける自分史づくり支援の意義と方法」など「超高齢社会と図書館」に関するもののほか、「移動図書館の役割の再考」や「児童図書館研究会における児童図書館員養成の変遷」などの図書館文化史に関するもの、「高等教育機関における学習支援空間のゾーニング」「英国の大学図書館における学習支援空間：JISC のプロジェクトを中心に」などの大学図書館に関するもののようによ岐にわたっています。

卒業研究は、これまで学んだものを基盤として積み上げ、卒業論文という形で表出するという意味で、勉学の集大成であるといえます。能動的に取り組みれば取り組むほど、思考力や表現力、コミュニケーション力が培われます。論文執筆に終始するのではなく、卒業研究にとりくむ過程でぜひ多くの力を身につけてください。



溝上教授とSporting Memories groupのみなさんと

教員紹介

知識情報・図書館学類の教員と各々の専門を表すワードです

知識科学主専攻

于 海清

- 知識情報学
- インタラクティブ情報検索

後藤 嘉宏

- メディア社会学
- 社会思想史
- マス・コミュニケーション論

上保 秀夫

- インタラクティブ情報検索
- コンテキスト
- レファレンスサイエンス

照山 絢子

- 文化人類学
- 医療人類学
- コミュニケーション学

中山 伸一

- 情報化学
- 感情予測
- 情報知識化

真榮城 哲也

- 生命現象の解明
- さまざまなモノの関係性
- 専門知識の利用

叶 少瑜

- 個人特性と社会的ネットワーク
- 対人コミュニケーションにおけるメディア使用の影響

芳鐘 冬樹

- 研究者の生産性
- 研究協力ネットワーク
- 計量書誌学

大澤 文人

- 教育におけるマルチメディアの活用
- 教育におけるコンピュータの活用

三波 千穂美

- テクニカルコミュニケーション
- サイエンスコミュニケーション
- 文書リテラシー

辻 慶太

- シソーラスの自動構築
- レファレンスサービス
- 図書推薦システム

歳森 敦

- 選択行動モデル
- 選好意識の解明
- 地域施設計画

長谷川 秀彦

- データサイエンス
- ハイパフォーマンスコンピューティング
- 数値線形代数

松林 麻実子

- 情報行動
- メディア分析
- コミュニケーション

横山 幹子

- 知識の確実性
- 知識の共有
- 言語と思考

知識情報システム主専攻

宇陀 則彦

- 電子図書館
- 情報資源共有
- 知識現象の解明

SARCAR SAYAN

- ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI)
- 高齢化とアクセシビリティ
- 知的支援システム

佐藤 哲司

- 情報アクセス
- 知識画像とコミュニティ分析
- コンテンツ工学

関 洋平

- 情報アクセス
- 自然言語処理
- コミュニケーション支援

手塚 太郎

- 機械学習
- 時系列データ解析

BARYSHEV EDUARD

- アーカイブズ学
- 国際関係史
- 比較社会学

松本 紳

- サイエントフィックビジュアルイゼーション
- 計算物理

落合 陽一

情報メディア創成学類からの協力教員

森継 修一

情報メディア創成学類からの協力教員

加藤 誠

- データ検索
- Web データマイニング
- 検索行動分析

阪口 哲男

- 迷惑メール対策技術
- 次世代のインターネット利用技術
- 情報の蓄積と共有を推進するシステム

鈴木 伸崇

- XML
- 構造化文書
- アルゴリズム

高久 雅生

- 情報行動
- 電子図書館
- 情報検索

時井 真紀

- 情報表現
- 計算物理
- 計算機シミュレーション

松村 敦

- Web 情報システム
- 情報探索・検索
- 読み聞かせと絵本推薦

若林 啓

- 統計的機械学習
- 対話システム
- ソーシャルメディア解析

森嶋 厚行

情報メディア創成学類からの協力教員

情報資源経営主専攻

池内 淳

- 公共図書館政策
- 図書館評価
- ウェブの計量分析

白井 哲哉

- アーカイブズ学
- 図書館地域資料
- 日本地方史

原 淳之

- ヨーロッパの図書館
- 図書館文化史
- 図書館の国際比較

吉田 右子

- 公共図書館論
- 公共図書館サービス
- 公共図書館史

逸村 裕

- 学術情報流通
- 情報利用行動
- 大学図書館

鈴木 佳苗

- 児童青少年の読書
- メディア利用の影響
- メディア教育

平久江 祐司

- 学校図書館経営
- 学校図書館利用指導
- 情報リテラシー教育

綿拔 豊昭

- 日本の図書文化
- 江戸の書籍文化
- 和歌・連歌・俳諧

大庭 一郎

- 情報サービス (レファレンスサービス)
- 公共図書館
- 図書館職員

辻 泰明

- 映像メディア
- 映像アーカイブ
- 映像コンテンツのインターネット配信

溝上 智恵子

- 大学教育
- 教育政策
- 生涯学習論

小泉 公乃

- 図書館の経営戦略と組織
- パブリックガバナンスと公共図書館
- 図書館のコレクション評価

呑海 沙織

- 図書館文化史
- 超高齢社会における図書館
- 知識情報基盤

村井 麻衣子

- 知的財産法
- 著作権法
- 著作権の制限規定

入試(2020年度)

大学説明会は2019年8月3日です
実際の大学を知るにはこれが一番。大学のことを知れば勉強意欲もわいてくる。

一般入試

大学入試センター試験と個別学力検査に基づく選抜(分離・分割方式)
募集人員 前期日程40名 後期日程15名

前期日程はオールラウンドな人向け

選択科目(地歴・公民・理科)と数学、外国語、センター試験。数学は数Ⅱと数Ⅲでも受験できる。

後期日程は広い視野と独創性を重視

センター試験と小論文。小論文で自分の考え方をしっかりまとめるのがポイント。

推薦入試

高等学校長の推薦に基づく選抜
募集人員 40名

論理的思考力とコミュニケーション能力

小論文では、論理的に考え、それをきちんと表現できるかが重要。集団面接では、自分の主張を伝える表現力、他の人の発表に対する質問力、的確な回答力がポイント。

AC入試

自己推薦に基づく選抜
募集人員 5名

自分自身の課題でトライ

自分で見つけた課題に自ら取り組み、その成果を自己推薦書として提示。未知の課題を発見し、解決する能力をどれだけアピールできるかがポイント。

国際バカロレア特別入試

提出書類と面接・口述試験による選抜
募集人員 若干名

主体的に学ぶ意欲

主体的に学ぶ意欲のアピールと論理的思考やコミュニケーション能力がポイント。

私費外国人留学生入試

日本留学試験とTOEFL、小論文、面接による選抜
募集人員 若干名

知識と情報について学ぶ意欲と日本語能力

小論文は日本語で論理的に表現できるかがポイント。面接には知識と情報について学びたいという意欲をもって臨むことが大切。

日付は2019年4月から2020年3月の間

試 験	募集人員	出願期間	試験日	合格発表	入 試 科 目	配 点
AC入試	5名	8月	10月	10月	第一次…書類選考、第二次…面接(募集要項は6月公表予定)	—
国際バカロレア特別入試	若干名	8月	10月	10月	第一次…書類選考、第二次…面接(募集要項は6月公表予定)	—
推薦入試	40名	11月	11月	12月	小論文と集団面接	—
大学入試センター試験	—	—	1月	—	国語 国語	200
					数学 数Ⅰ・数Ⅱ 数Ⅲ・数Ⅳ、簿、情報から1	200
					外国語 英(リスニングテスト含む)、独、仏、中、韓から1	200
					① 地歴 世A、世B、日A、日B、地理A、地理Bから1 公民 現社、倫、政経、倫・政経から1	100 100
					理科 物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2 または物理、化学、生物、地学から1 [6教科7科目]	100
					② 地歴 世A、世B、日A、日B、地理A、地理B } から1 公民 現社、倫、政経、倫・政経 } 理科 物理、化学、生物、地学から2 [5教科7科目]	100 200
個別学力検査 前期日程	40名	1月頃	2月	3月	数学 数Ⅱ・数Ⅲ、数Ⅳ・数Ⅴ、数Ⅵ・数Ⅶ、数Ⅷから1	400
					外国語 英、独、仏から1(事前選択)	400
					地歴 世B、日B、地理Bから1 公民 倫 理科 物理基礎・物理、化学基礎・化学、 生物基礎・生物、地学基礎・地学から1 } 1教科選択 (事前選択)	200
個別学力検査 後期日程	15名	1月頃	3月	3月	小論文	200
私費外国人 留学生入試	若干名	1月頃	2月	3月	日本留学試験(文科系または理科系)、TOEFL、小論文、 面接	—
3年次編入学	10名	6月	7月	7月	面接・口述試験(募集要項は4月公表予定)	—

詳細は必ず「入学者選抜要項」及び「学生募集要項」(2019年9月公表予定)を参照してください。大学入試センター試験においては、①または②を選択してください。

問い合わせ先 筑波大学 教育推進部 入試課 電話 029-853-6007

入試(2021年度以降)

筑波大学の入学者選抜制度は前期日程での総合選抜の導入に伴って、2021年度入試から大きく変わります。ここでは、「知識情報・図書館学類で学ぶ」という視点で変更点・注意すべきことを説明します。

総合選抜による入学者は、入学時には学類が決まっておらず、2年生になる時点で本人の希望と単位取得した科目、成績などで学類が決定します。知識情報・図書館学類は、前期日程（定員40名）を廃止し、総合選抜入学者を2年次から45名受け入れることにしました（表）。

試験	～2020年度 入学者	2021年度 入学者
アドミッションセンター入試	5	5
推薦入試	40	40
前期日程	40	—
後期日程	15	10
（総合選抜からの受入定員）	—	45
入学定員	100	100

（この他、国際バカロレア特別入試、私費外国人留学生入試から若干名を受け入れます）

■ 知識情報・図書館学類への志望が明確な人

最初から知識情報・図書館学類で学ぶ意志がはっきりしている人には、アドミッションセンター入試（定員5名）、推薦入試（定員40名）、後期日程（定員10名）の受験をお勧めします。特に、推薦入試は明確に志望が定まっている受験者の主な受け入れ口と位置づけて、学習成績の基準を引き下げたり、1校で推薦できる数の制限を撤廃したり、既卒者の出願を認めたりなど、2019年度入試から門戸を大きく広げています。平均評定値が4.0に達しない人でも「筑波大学の個別学力検査等に合格できる程度以上の学力を有する者」という条件に合致すると高校が認めた場合は出願資格があります。知識情報・図書館学類で学びたい方は、まずは推薦入試の受験を検討してください（p.10参照）。

入学者選抜制度が変わっても、学類のカリキュラム自体は変わらないので、総合選抜以外の入試で知識情報・図書館学類に入学した人は、このパンフレットで説明されているカリキュラムで学ぶことになります。

■ 志望する学類を迷っている人

知識情報・図書館学類に興味はあるが他の分野にも魅力を感じる等、志望先に迷いがある人や、大学で実際に授業を受けながら自分の志望先を選びたい人は前期日程の総合選抜を受験すると良いでしょう。総合選抜は科目の組み合わせや配点の違いなどで4種類の選抜区分がありますが、知識情報・図書館学類は文系の入学者から10名、理系Ⅲの入学者から30名を優先して受け入れます。また、文系と理系Ⅲを含む全ての区分から5名を受け入れます。複数の分野を学ぶことに積極的な学生を受け入れるため、知識情報・図書館学類は、全学でも最大の45名を受入定員としています。

総合選抜からの移行（所属学類を決めることを「移行」と呼びます）にあたっては、指定した科目の単位取得を条件とする学類もありますが、知識情報・図書館学類ではそのような条件は設定しません。知識情報概論、プログラミング入門、情報数学Aは知識情報・図書館学類生が1年生で履修する必修科目ですが、これらを履修せず他の科目を選択した人でも、知識情報・図書館学類への移行を希望できます（1年生でこれらの科目を履修しなかった人は2年生で履修することになります）。その点では、知識情報・図書館学類はどの学類・専門学群とでも志望を両立できるようになっています。ただし、情報学群は2019年度入学者から1年生で履修する科目の大部分を共通化したので、情報科学類、情報メディア創成学類、知識情報・図書館学類の間では特に移行先を選択しやすくなっています。

総合選抜から知識情報・図書館学類に移行しても、他の入試区分で入学した学類生とカリキュラムは同じです。1年生で履修しなかった科目があれば、2年生以降で補いながら、4年間で学類の卒業要件を満たすように学ぶことになります。



推薦入試の面接が ビブリオ

2018年11月実施の推薦入試から、募集人員を40名に拡大し、基礎的な知識の習得に加えて、思考力・判断力・表現力などの能力を多面的に評価することを目指して、「ビブリオバトル」方式の面接を導入しました。

1. 出願資格

2017年までの推薦入試は現役生のみを対象としていましたが、**既卒者も出願可能**とします。従来どおり、出身学校長の推薦が必要です。

2. 推薦要件

推薦要件(1)を以下のように緩和します。また、1校で推薦し得る数を「制限なし」とします。

旧：調査書の学習成績概評A段階に属する者、又は筑波大学の個別学力検査等に合格できる程度以上の学力を有する者



新：調査書の学習成績全体の評定平均値が**4.0以上**の者、又は筑波大学の個別学力検査等に合格できる程度以上の学力を有する者

3. 選抜方法

小論文及び面接を実施することは変わりません。ただし、面接方法を**集団面接(グループディスカッション)**とします。

面接では、自分が選んだ本の魅力を伝えてもらい、それをもとにメンバ全員でディスカッションします。これは、日本で生まれたコミュニケーションゲームでビブリオバトルと呼ばれています。バトルと言っても論戦ではありません。面接員は自分の意見をうまく伝えられるか、協調的な質問ができるか、質問の意図を汲み取るのに回答できるかなどを評価します。



……。何もわからないけろ。

推薦入試が集団面接に変わります。
順番に説明していくね!!



ビブリオバトルって何けろ?

5分で本を紹介して、読みくなった本(チャンプ本)を決めるコミュニケーションゲームよ。



これ入試にするとマジけろ!?

大マジ。



チャンプ本に選ばれれば受かるけろ?

チャンプ本と面接の評価は無関係です。



これ入試として成り立つのけろ?

成り立つよ。志望動機や高校での活動といったありきたりな話題ではなく、その人がこれだと思った本を紹介してもらうことで、表現力、説得力、質問力を見るの。

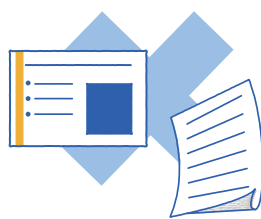


本はなんでもいいけろ?

本は自分が紹介したいものを1冊選んで下さい。漫画も電子書籍もおっけー!! 面白い例だと時刻表とかあったらしいよ。ただ、本の実物や電子書籍の画面を見せるのはOKだけど、補助資料(スライド・レジュメ等)は使用禁止です。ライブ感が大事なの。



紙の本はもちろん
漫画・電子書籍もOK!



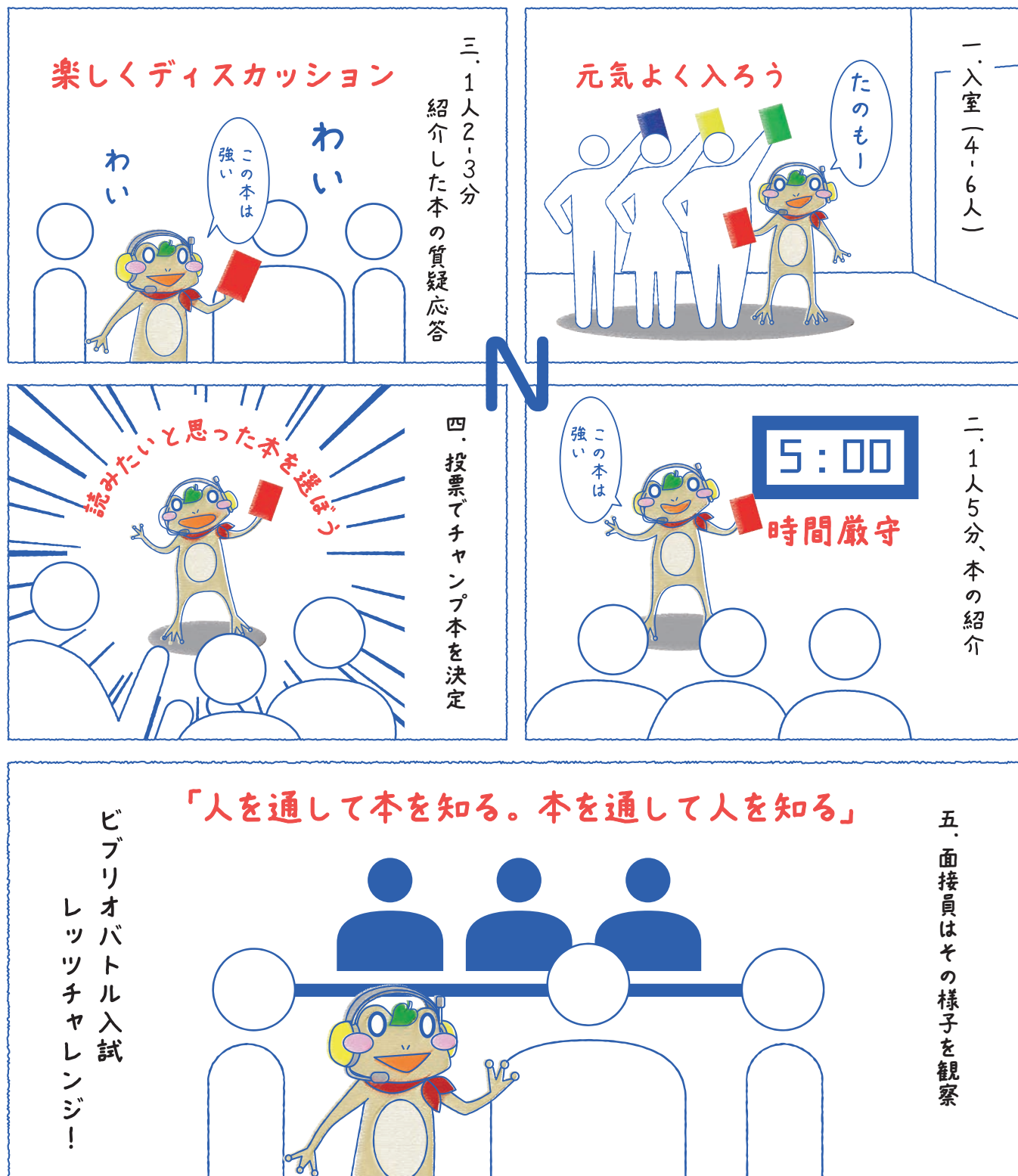
補助資料
スライド・レジュメ等

バトルになります。



ちゅーりっぷさん

面接の流れ



3年次編入

1. 編入について

知識情報・図書館学類では、次の2種類の編入生を受け入れたいと考えています。

- ①類似した領域から来て、そこで習得した知識・技術を深める
- ②異なる領域から来て、そこで習得した知識・技術をもとに新しい道をめざす

①のタイプは、たとえば短期大学で司書資格科目を履修したり、高等専門学校で情報工学を専攻したりするうちに、より専門的に学びたいと考えるようになった人たちです。②のタイプは、たとえば法律学や化学を学んで、その知識を知識情報学（図書館情報学）のなかで活かして法律図書館や化学情報といった今までとは異なる領域について学びたいと考えるようになった人たち、あるいは情報工学を技術的側面から学んできたのちに社会的側面からも学びたいと考えるようになった人たちなどです。

2. 入学試験

入学試験では、学習計画書を提出していただき、その内容について30分程度の面接・口述試験を行います。

学習計画書には、自分は①のタイプなのか、あるいは②のタイプなのかをよく考えて、2年間の大学生活でどのようなことを学びたいのかをまとめてください。学習計画書を補足するための資料を添付してもかまいません。

面接・口述試験では、10分程度でこれまでの学習内容、志望の動機、これからの学習計画などについて説明していただきます。試験時に説明用資料を配布することもできます。

編入学試験では、その時点での学習計画をきちんと説明できることが重要で、入学後にその学習計画を変更してもかまいません。

3. 入学

合格発表後、8月末の平日午後に東京キャンパスで合格者向けのガイダンスを実施します。カリキュラムや単位認定についての概要を説明したうえで、クラス担任予定者や教育課程の教員が、合格者ごとに単位認定の見通しの試算や主専攻選択について個別面談を行います。例年、ガイダンスでの単位認定見通しを受けて、在籍校での履修計画を見直す人が多く、結果的に編入学時の認定や入学後の履修がスムーズに進むようです。

卒業に必要な単位数の約半分を、編入学時までの学修内容に応じて単位認定します。これまでの実績では55単位～69単位、平均すると約63単位が認定されています。卒業に必要な単位数は125.5単位ですから、編入学後63単位前後の履修が必要になります。1年次入学の標準的な履修プランでは1・2年次で約80単位、3・4年次では約50単位となっています。

知識情報・図書館学類生としてかならず学んでほしい科目は単位認定の対象外なので、1・2年次生に混ざって受講する必要があります。この場合、同じ時間帯に開講される3・4年次向けの専門科目は4年次に受講することになります。

編入学者は3年次生として、三つある主専攻のひとつに所属し、1年次からの学生に混ざって主専攻実習や専門科目を学びます。卒業研究の研究室配属は3年次秋に行います。

背景が異なるさまざまな編入生を受け入れるため、クラス担任を中心に、学習計画の指導に力を入れることになっています。計画的に履修すれば司書資格の取得は可能ですが、教員免許状を2年間で取得するのは不可能です。

4. 説明会

2019年4月20日（土）13:30から春日エリアの情報メディアユニオンにおいて編入説明会を行います。

先輩の声

「筑波大学で最先端の研究に触れたい」。私はそう考えて、東京高専から知識情報・図書館学類に編入しました。

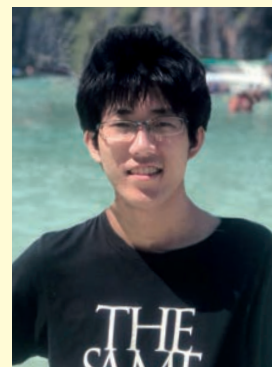
私は根っからのプログラミング好きです。小学校の頃からプログラミングを始め、高専では情報工学科を専攻していました。その延長線で、知識情報・図書館学類で学ぶことができる図書館情報学という分野に関心を抱くようになりました。

図書館情報学は、本を効率的に検索することを目的に発達してきた学問です。そのため、情報検索、自然言語処理といった分野と関連が深いです。

私は高専の卒業研究で自然言語処理の研究を扱っていたため、図書館情報学を基盤とする知識情報・図書館学類では自然言語処理を扱う研究室や授業も多いということに惹かれました。図書館情報学を学ぶことができる大学は全国に47校ありますが、特に情報工学的アプローチを行って図書館情報学を学べる国立大学は筑波大学しかありません。

私が入学して実感したことがあります。それは筑波大学が世界トップレベルの研究を展開する素晴らしい環境だということです。一般的な大学では4年生になってから研究を始めるのがほとんどだと思いますが、筑波大学では先導的研究者プログラムなど研究室配属前でも研究を始められる環境が整っています。

実際に私は編入してすぐに高専でやっていた卒業論文の続きを研究したいと考え、教授や博士課程の先輩からアドバイスをいただく中で、国際学会の論文を投稿する機会が与えられました。国際学会を通して世界の研究者と議論を交わし、より研究の視野が広がりました。筑波大学は好きなことを追求していける環境です。編入を通して、より自らの分野を伸ばしていけるように願っています。



富平 準喜
TOMIHIRA Toshiki
(高専出身)

知識情報システム主専攻



池田 真里江
IKEDA Marie
(大学出身)

情報資源経営主専攻

私は、以前の大学で社会学を学んでいました。そんな中、地域コミュニティを育む場としての図書館に興味を持ち、編入を決意しました。

知識情報・図書館学類では、文系、理系の垣根を超えた学びが可能です。よって文系的視点、理系的視点の両方から物事を多角的に見ることができるようになります。ここで習得したことは、社会に出て大いに役立つと思います。とは言っても、文系出身の私にとって、プログラミングを理解することは、容易ではありません。しかし、困った時は同期の編入生が手を差し伸べてくれます。また、苦勞したからこそ、知識を得た時の喜びは大きく、学ぶことの面白さを改めて実感することもできます。

同期の編入生は、芯が強い人の集まりです。一人一人が自分の考えや目標を持ち、行動しています。彼らの姿を見たり、意見を交換したりすることは、自分の刺激になり、原動力になります。編入して、互いに高め合える仲間と出会えたことは、私にとって一生の財産です。

皆さんが今まで学んできたことは、必ず活かすことができます。私自身、講義や卒業研究の中で、学びを深める際には、社会学的な観点を織り交ぜながら考察するようにしています。これは、異なる分野を学んできたからこそできる編入生の強みだと思います。

編入に対して不安を抱くこともあると思いますが、筑波大学は編入生を快く受け入れてくれるため、すぐに充実したキャンパスライフを送ることができます。きっと「編入して良かった」と感じるはずですよ。ぜひ、知識情報・図書館学類と一緒に素晴らしい経験をしましょう！

3年次編入のためのQ&A



Q. 編入学した人の出身は?

A. 年度によって異なりますが、大学と高等専門学校が多いようです。2019年度の場合、高専3名、短大3名、大学5名、専門学校1名です。

Q. 学生宿舎には入れますか?

A. ほとんどの人は最寄りの春日宿舎に入れますが、時として追越宿舎(徒歩約15分)が割り当てられることもあります。

Q. サークルは入れますか?

A. 多くの人がサークルに入っています。

Q. 知り合いは多くできますか?

A. 入学直後の2日間連続のオリエンテーションなど、編入生同士が出会う機会が多く、毎年仲良くやっているようです。また、1・2年次生と同じ科目を履修するため、学年を越えた知り合いも沢山できます。

Q. 他学類・他学群の授業は取れますか?

A. 可能です。ただし、短期間に多くの科目を取らなければならない編入生にとっては、現実にはかなり厳しいと思われます。

Q. 文系学生はプログラミングや数学が大変?

A. 大変です。ただし、理系か文系かで決まるのではなく、個人のやる気に依存します。数学もプログラミングも専門家を育てるためではなく、どのような分野でも必要な数学的な考え方、論理的思考力を養うための科目となっています。

進路

■「自分にマッチ」したフィールドを！

知識情報・図書館学類の魅力は、文理融合型カリキュラムによって、知識と情報、人間、社会に関する基礎的な知識と技術を広く学びながら、自分が深めたいと思う専門領域を見つけられるところにあります。基礎教育を重視したカリキュラムは、将来、多様な分野で活躍できる下地をつくります。三つの主専攻ではそれぞれ専門的な知識と技術を修得することができます。大学4年間を通じて、知識情報にかかわる広大な世界に触れることは、みなさんの可能性を広げることになるでしょう。知識情報・図書館学類では、隠された自分の可能性を発見し、「自分にマッチ」したフィールドにたどり着くことができます。

■進学

本学はもとより、他大学を含めて20～30%ほどの卒業生が大学院に進学しています。知識情報・図書館学類の教員が所属している大学院として、2年間の博士前期課程（修士課程）と3年間の博士後期課程（博士課程）からなる図書館情報メディア研究科があります。図書館情報メディア研究科には推薦入学の制度があるので、学類での成績が優秀なら早い時期から自分の進路を定めることもできます。いろいろな専門分野を学んできた多数の大学院生とともに切磋琢磨し、より高度な知識と技術の修得、先端的な研究を行

います。こうして身につけた能力を活かして、博士前期課程修了後にはより高度な専門性を必要とする職業に就くことができます。さらに博士後期課程へ進み、大学教員や研究者をめざす道もあります。また、図書館情報メディア研究科では夜間や土曜日に学習・研究ができるように、東京キャンパス文京校舎に東京サテライトを設けていますので、社会人として仕事をしながら大学院で研究を続けることもできます。

■資格取得

将来へのきっかけとして、大学在学中に資格取得を考えてみるのもよいでしょう。資格取得はスキルアップにもなりますし、自分への自信にもつながります。将来、どのような職に就いても、「知識」と「経験」はかならず力になります。

知識情報・図書館学類では司書資格、司書教諭資格、教員免許状が取得できます。司書教諭資格は、司書教諭科目を履修し教員免許状を取得することで取得できます。教員免許状は、中学校教諭一種免許状（社会・数学）と高等学校教諭一種免許状（公民・数学・情報）が取得できます。定められた科目を履習して、JTCAに申請することにより、テクニカルコミュニケーター専門課程修了認定を受けることもできます。

また、自分の可能性を広げるため、基本情報技術者試験、経営学検定試験（初級）などの受験を勧めています。

春日エリアのキャリア相談室より

キャリアアドバイザー 神村 孝子

キャリア相談室では「就職」「進学」に関する質問や相談はもちろん、「学生生活を有意義に過ごすためには」「学んだことを将来どのように活かしたいか」など、幅広い内容の相談が日々行われています。来談された方が対話をとおして自分を知り、社会を知り、将来のことを考え、主体的な学生生活を送るきっかけになる場所を目指しています。個人相談のほかには、学生間で情報交換ができる「オープン相談」、学類で学んできた知識や経験を語り合いながら自分の強みを発見するワークショップ、「大学職員さんに話を聞こう」と称して、図書館職員や事務職員として活躍する方を招いて懇談し、実際の仕事を具体的にイメージするための試みも行っています。おかげさまで、1年生から4年生まで、各学年の進路の悩みや考えを語り合える場所になってきました。

私自身、就職課の就活アドバイザーも兼務していますので、就職課主催のイベント等の情報提供もしています。主なイベントは約700社の企業人事担当者と卒業生の社員が来学し身近に質疑応答ができる「学内企業説明会」や面接対策などのための「就活フォローアップ講座」など実践に役立つものが数多くあります。イベントを通じて他学類の人や様々な社会人と接することは、進路への意識を高めるよいきっかけになると思います。筑波大学には、4年間の中で自分の可能性を広げていけるたくさんさんの機会と環境があります。これらを存分に活かすことで、変化の激しい時代に活躍できる基盤となる力を築いていただきたいと思います。今を考えることは未来を考えることにもつながります。学生生活の中でちょっと立ち止まって自分のことを考えたくなった時に、ほっとひと息つける場所になれるよう、ドアを開けてお待ちしております。

■就職

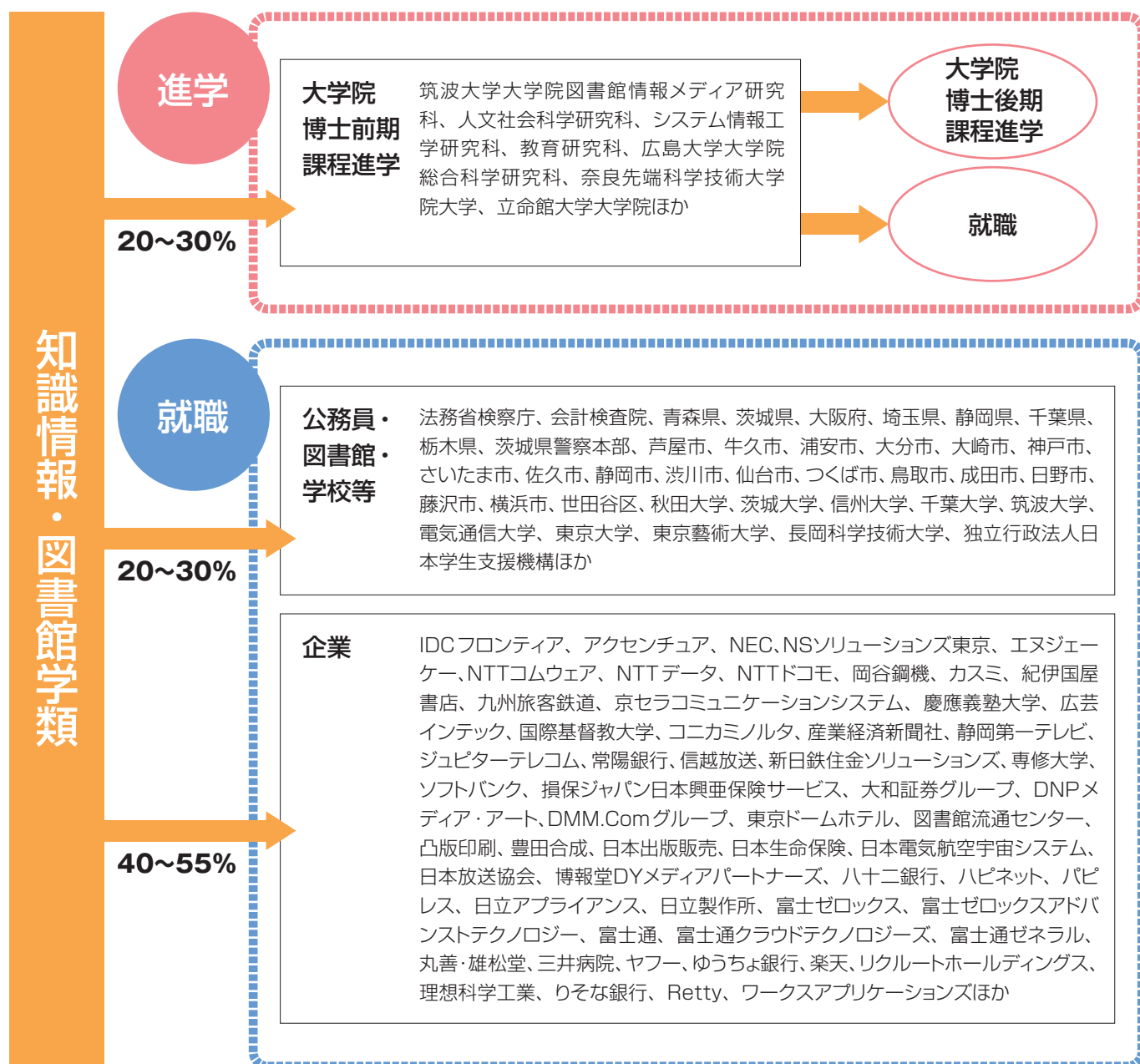
知識情報・図書館学類の卒業生は、さまざまな分野で活躍しています。下図のように、就職先は、大きく「公務員・図書館・学校等」と「企業」に分けることができます。「公務員・図書館・学校等」では出身都道府県に就職する学生も少なくありません。また、企業への就職では、出版社、書店・取次、IT関連企業、インターネット関連企業、通信関連企業、銀行、サービス業などがあります。テクニカルコミュニケーター専門課程修了認定を受け、テクニカルライター職で活躍する学生も増えてきています。

今後ますます、知識の本質を理解したエンジニアや企画経営能力を有する開発者など、多様な視点をもった人材が必要とされ、実際にそうした人材を輩出しています。

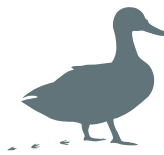
■就職支援

知識情報・図書館学類では、きめ細やかな就職支援を行っています。学生の個別相談に対応するため、独自にキャリアアドバイザー（週1日）を配置し、気軽に相談できるようにしています。企業系志望の学生のためには、進路説明会や学生間で情報を共有するための「進路情報カフェ」などを実施しています。公務員・図書館志望の学生のためには、公務員採用試験に向けて独自の教養試験対策を行っています。また、全学レベルでのキャリア支援活動も受けることができます。

卒業生の主な進路



先輩の声



新川 航平 NIIKAWA Kohei

知識情報・図書館学類2年

パンフレットをじっくり見てきた皆さん、こんにちは。最初にこのページを見た皆さんもこんにちは。突然ですが、知識情報・図書館学類について皆さんはどのようなイメージを思い浮かべていますか?「図書館」が入っているから本について学ぶのかな、「情報」だからやっぱりパソコン使うのかな、たくさん「知識」を蓄えるのかな。人それぞれ、いろんな想像ができると思います。そのどれにも実際に挑戦することが出来るでしょう。

僕がこの学類で一番オススメするところは、ズバリ「教養」です。この学類で知識情報・図書館の世界を探求する間に幅広い教養を身に付けることができます。哲学、数学、法律、はたまたプログラミングまで……。自分の知識の幅、専門にとらわれない自由度をグングン伸ばすことができます。幅広いのは授業だけじゃありません。文理融合であるこの学類には本当にさまざまな人がいます。本が大好きな人、パソコンに詳しい人、バイタリティにあふれた人。きっと気の合う友人とも出会えるはずです。また、大学では、サークルなどで自分たちが主体となって団体を動かす機会が圧倒的に増えます。バイトもできます、よい社会経験が積めるでしょう。みなさんも是非この学類で自分の可能性を広げ、大きく成長していきましょう。

福元 孝太郎 FUKUMOTO Kotaro

知識情報・図書館学類3年

知識情報・図書館学類。「何をやる学類なの?」「図書館のことばかりやるの?」。イメージがなかなかわからない方も多いでしょう。私も何度も友人に聞かれました。いつもは笑って「自分もわからないよ!」と流してしまいましたが、今回、このパンフレットを手にとってくださった方々に向けて、真面目に答えてみたいと思います。

私にとって、知識情報・図書館学類とは、一言でいうと、まさに「自由」であると考えています。図書館司書を目指して図書館情報学という大海に飛び込んでいくのもよし。エンジニアを志し、プログラミングに没頭するのもよし。哲学のような科目からプログラミングのような科目、そして教職科目まで、様々な学びを「自由」に選択できるのです。

話は変わりますが、私は硬式野球部に所属し主務としてチームの運営に関わっています。大学では、学類の仲間とともに様々なことを学び、授業以外では、部活の仲間と共に「日本一」を目指して活動しています。私のように、知識情報・図書館学類は、様々な学類・組織の人々と自由に関わり、様々な経験ができるのです。

私自身、知識情報・図書館学類に入ったことが正解だったのかと悩んだ時期もありました。しかし今では、自分には知識情報・図書館学類への進学がベストな選択だったと胸を張って言うことができます。自分のやりたい学びを「自由」に追究することができる。それが「知識情報・図書館学類」なのです。



内田 有咲 UCHIDA Arisa

知識情報・図書館学類4年

知識情報・図書館学類とは、どんなことを学ぶ学類だと思いますか?おそらく「図書館」という言葉のインパクトが強いため、図書館について専門的な勉強をするところだと思われるのではないのでしょうか。しかし、4年間この学類で学んでみると、図書館に関する専門知識を深めるだけでなく、プログラミングや統計、法制度、哲学といった幅広い分野について学ぶことができました。興味があれば他学類の講義を受講することも可能となっています。また、知識情報・図書館学類という名前を聞いて、就職活動に不安を抱く方もいらっしゃるかもしれません。しかし、この学類では幅広い分野について学ぶことができるということが武器となり、私の就職活動では学類の名前が不利になったとは感じませんでした。私の周りの友人も同じように感じたらしく、様々な分野の企業に内定をいただいています。

4年生になると、研究室に配属されます。研究室でのゼミは、他の大学と比較して少人数で行われるため、先生方との距離が近く、アットホームな雰囲気の中、研究を進めることができます。このような機会はなかなかなく、とても贅沢な時間であったと思っています。

最後に、学類の4年間は自由な時間を沢山つくれる最後のチャンスです。皆さんもぜひ、様々なことに興味を持てるよう視野を広げて、何か一つでも興味を持ったことがあったら、とにかく足を動かし挑戦してみてください。そこで経験したこと、出会った方すべてが、必ず皆さんにとって大きな財産になると思います。



学生生活Q&A

Q 入学金と授業料は？

A 2019年度の場合、入学金は282,000円、授業料は年間535,800円です。なお、入学時及び在学中に学生納付金の改定が行われた場合は、改定時から新たな納付金額が適用されます。

Q 授業料免除の制度はありますか？

A 全額免除・半額免除・1/3免除があります。
2018年度知識情報・図書館学類の場合、免除者は53名でした。

Q どんな奨学金がありますか？

A 日本学生支援機構による奨学金制度には、無利息の第一種奨学金と利息つきの第二種奨学金があります。

2018年度入学者の場合（月額）

●第一種奨学金（希望額を選択）

〔自宅通学者〕 20,000円、30,000円、45,000円

〔自宅外通学者〕 20,000円、30,000円、40,000円、51,000円

●第二種奨学金（希望額を選択）

20,000円～120,000円までの1万円単位の金額

その他、筑波大学学生奨学金「つくばスカラシップ」、地方自治体や財団法人による各種奨学金制度もあります。

Q 奨学金の貸与を受けている人はどのくらい？

A 2018年度知識情報・図書館学類の場合、日本学生支援機構の第一種奨学生は77名、第二種奨学生は47名でした。

Q 学生宿舎はありますか？

A 春日エリアに春日学生宿舎があり、春日エリアの新入生は優先的に入居できます。全室個室、ベッド・机・椅子つきで、LANの設備もあります。宿舎費は、月額19,615円です。この他に、個室電気料（従量分）、コインランドリー代1回100円、シャワー代1回100円がかかります。また、徒歩15分～20分のところに、追越学生宿舎、平砂学生宿舎、Global Villageがあります。

Q アパートは紹介してもらえますか？

A キャンパスの近くには多くの学生向けのアパートがあり、台所と6畳の1Kで3～5万円程度で、徒歩や自転車で通える範囲から探すことも可能です。学生生活課の窓口には、一部近隣物件の資料があり閲覧可能ですが、大学から直接、物件の紹介やあっせんは行っておりませんので、各自不動産業者に照会してください。

Q 授業のある日は？

A 春学期（4月1日～9月30日）、秋学期（10月1日～3月31日）、それぞれに3つのモジュール（A, B, C）があり、この期間の月曜日から金曜日に授業があります。週2時限で10週間の授業に試験またはレポートが基本ですが、5週授業（週4時限）、15週授業（週1時限）、30週授業（週1時限）の科目もあります。土曜や休暇中の集中授業もあります。夏休みは8月中旬から9月末まで、冬休みは12月下旬から1月上旬、春休みは2月中旬から4月上旬までです。

Q 大学構内の移動は？

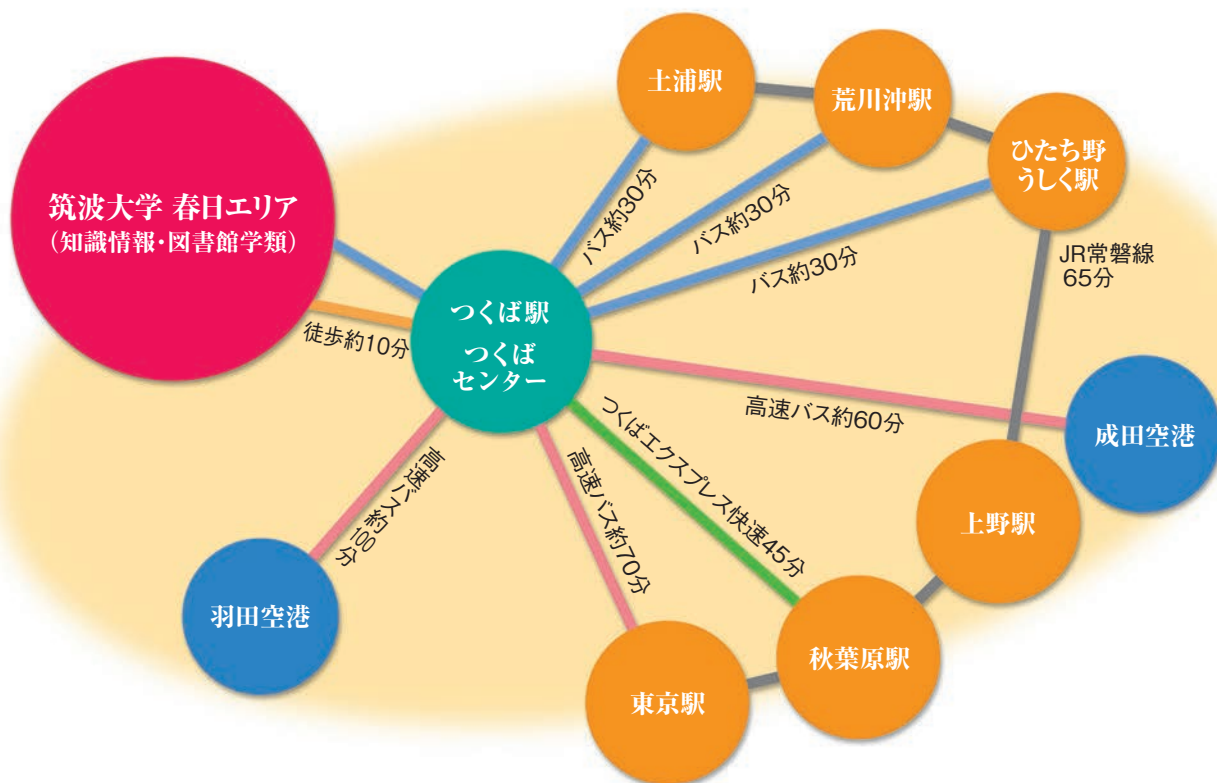
A 路線バスを使って他エリアに移動できます（平日8:00～21:00は20分間隔）。学生は年間8,600円の定期券で、つくばセンターから大学構内までの路線バスをいつでも自由に乗り降りできます。また、自転車で移動する学生も大勢います。

Q パソコンは必要ですか？

A 春日エリアには、WindowsとLinuxの両方が使えるパソコン約230台が設置されており、自由に使うことができます。ただ、多くの学類生は自分自身のパソコンをもっているようです。すべての教室で無線LANが使える、春日学生宿舎のすべての個室にも無線LAN（有線使用可）があります。

Q 休日に図書館や実習室が使えますか？

A 図書館情報学図書館が8:30から22:00（土日祝10:00から18:00）、春日エリアの実習室が8:00から22:00で、休業期間中は短縮されます。春日エリア外の図書館や実習室も利用できます。ただし、授業のため利用できない場合があります。なお、コンピュータシステムは基本的に年中無休でいつでも利用できます。



徒歩

「つくば駅」(A2出口)または「つくばセンター」から徒歩約10分です。

鉄道

秋葉原駅からつくばエクスプレス 快速に乗ると45分で「つくば駅」に到着します。

JR常磐線 ひたち野うしく駅、荒川沖駅、または土浦駅で下車し、「つくばセンター」行きもしくは「筑波大学中央」行きのバスに乗ると、約30分で「つくばセンター」に到着します。

高速バス

東京駅八重洲南口高速バスターミナル発「つくばセンター・筑波大学」行きに乗ると、約70分で「つくばセンター」に到着します。

車

常磐道「桜土浦IC」で降り、東大通りを約5.2km北上し、左折して北大通りに入り、2つ目の信号を左折すると「筑波大学春日エリア」に到着します。

飛行機

「つくばセンター」まで、羽田空港からは高速バスで約100分、成田空港からは高速バスで約60分です。



お問い合わせ

〒305-8550 つくば市春日1-2
筑波大学 図書館情報エリア支援室
 TEL:029-859-1110 FAX:029-859-1162

<https://klis.tsukuba.ac.jp/>
 E-mail klis-info@inf.tsukuba.ac.jp

2019年3月発行

